

平成23年行政事業レビューシート (国土交通省)

事業名	伝統構法を活かした木造住宅の生産体制強化の推進事業		担当部局庁	住宅局		作成責任者	
事業開始・終了(予定)年度	H17～H22		担当課室	住宅生産課木造住宅振興室		室長 藤本 俊樹	
会計区分	一般会計		施策名	2 住宅の取得・賃貸・管理・修繕が円滑に行われる住宅市場を整備する			
根拠法令 (具体的な条項も記載)	-		関係する計画、通知等	住宅市場整備推進等事業費補助金交付要綱			
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	伝統的な木造住宅の生産技術を有する大工技能者については、我が国の伝統的な構法による木造住宅の生産や歴史的街なみの保存、地域における木造住宅の維持修繕等の担い手として、その役割は極めて重要であるが、近年、新規の大工就業者数は減少し、高齢化率も上昇の一途をたどっている状況にあることから、伝統的な構法を活かした木造住宅の生産を担う後継技能者の育成により、木造住宅生産体制の強化を推進する。						
事業概要 (5行程度以内。別添可)	伝統的な構法を活かした木造住宅の生産を担う大工技能者を育成するため、①伝統的な構法を活かした木造住宅生産を担う大工技能者の候補者の募集、②募集・選定した者を対象として、大工技術や建築に関する知識・理論や、実際の住宅建設に係る実践的な大工技能を3年間で集中的に修得させる研修を実施する。事業者の選定については公募による。(補助率:定額・1/2)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求
		補正予算	400	380	370	-	-
		繰越し等	-	-	-	-	-
		計	400	380	370	-	-
	執行額	400	339	345	-	-	
	執行率(%)	100%	89%	93%	-	-	
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(32年度)
	減失住宅の平均築後年数		成果実績 年	27			40
			達成度 %	68			
	住宅の減失率		成果実績 %	7 ^(H15～20年)			6 ^(H27～32年)
		達成度 %	-				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	本事業の支援対象人数		活動実績 (当初見込み) 人	198	241	259 (240)	- ()
単位当たりコスト	1.3百万円 (執行額/支援対象人数)		算出根拠	執行額345百万円を本事業の支援対象人数259人で除して、支援対象1人当たりのコストを算出。			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	計						

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか	
	—	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果	<p>【前回の指摘を踏まえた執行上の改善点】 本事業については、平成22年度をもって終了しているが、今後、木造住宅の振興や木材利用の促進に関する補助事業等を実施する際には、過去の行政事業レビューにおける予算監視・効率化チームの所見を踏まえ、補助事業者の選定に当たって競争性が確保されるよう、公募要件が必要以上に厳しいものとならないようにするなど配慮するとともに、事業期間終了後に活動実績等の評価を行うなどして客観的効果を把握するよう努めてまいりたい。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
廃止 ⑧	22年度で終了		
	上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)		
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

国土交通省
345百万円

伝統的な構法を活かした木造住宅の生産を担う大工技能者を育成するため、①伝統的な構法を活かした木造住宅生産を担う大工技能者の候補者の募集、②募集・選定した者を対象とする、大工技術や建築に関する知識・理論や、実際の住宅建設に係る実践的な大工技能を3年間で集中的に修得させる研修の実施に対して補助。



【公募・補助】

A. 一般社団法人大工育成塾
345百万円

伝統的な構法を活かした木造住宅生産を担う大工技能者の候補者の募集、大工技術や建築に関する知識・理論や実際の住宅建設に係る実践的な大工技能修得のための研修を実施。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	一般社団法人大工育成塾	伝統的な構法を活かした木造住宅生産を担う大工技能者の候補者の募集、大工技術や建築に関する知識・理論や実際の住宅建設に係る実践的な大工技能修得のための研修	345	—	—
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					